

第1期中期目標期間の業務実績に関する評価結果

第1期（平成20年4月1日～平成24年3月31日）

平成24年8月

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会

目 次

1 全体評価	・・・・・・・・・・	1 ページ
2 大項目評価		
第1「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する大項目評価	・・・・・・・・・・	4 ページ
第2「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価	・・・・・・・・・・	13 ページ
3 参考資料		
① 第1 期中期目標期間中の急病センター患者数等の推移	・・・・・・・・・・	14 ページ
② 第1 期中期目標期間中の財務諸表数値の推移	・・・・・・・・・・	別 紙

全体評価

全体として第1期中期目標を十分に達成している。

第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上

事業年度評価結果				第1期中期目標 期間の評価
H20	H21	H22	H23	
A	A	A	A	A

第2 業務運営の改善及び効率化

事業年度評価結果				第1期中期目標 期間の評価
H20	H21	H22	H23	
A	A	A	A	A

- 地方独立行政法人那覇市立病院は、救急医療、小児医療、産科医療をはじめ市民が求める地域に根ざした高度な医療の提供に努め、医療水準の向上を図り、あわせて経営の効率化等に積極的に取り組むことを目標に、診療機能の充実と患者サービスの向上、市の医療施策推進における役割の発揮に努めている。
第1期中期目標期間において、地方独立行政法人制度の特長である自主性・自律性を最大限に発揮して、地域医療を担う中核病院としてさらに市民の健康の維持・増進に寄与するべく、理事長、職員が一丸となって病院運営に取り組んだ結果、医療サービスの向上及び病院経営の効率化、収支の大幅な改善に成果をあげ、地方独立行政法人化の所期の目的を十分に果たしたことは評価できる。
- 「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」の面では、365日24時間小児科医を配置した救急医療体制を継続的に実施、医療スタッフも積極的に増員し、医療の質の確保に努めている。また、地域医療を担う中核病院として、地域医療支援病院の名称を取得し、地域医療機関との連携強化に努めている。

(特筆すべき取り組み)

「診療機能の充実」

- ・ 常時小児科医を配置した365日24時間救急医療体制の継続的な実施
- ・ 積極的な医師確保と看護師確保による7対1看護基準の導入
- ・ NICUの増設によるハイリスク新生児受入れ体制の充実
- ・ 地域医療機関との連携を強化し地域医療支援病院の名称を取得
- ・ 脳卒中連携パス、大腿骨連携パス、がん連携パスの地域連携パスを作成、地域医療機関との連携を強化
- ・ 地域がん診療連携拠点病院として、医師等に対する研修会の開催、がんに関する情報の市民への普及など、がん医療水準向上のための取り組み
- ・ クリニカルパスの積極的な導入による医療サービスの効果的な提供

「患者サービスの向上」

- ・ MRIの予約枠拡大、早朝、時間外の検査実施及びエコー機の増設による当日検査実施体制の整備等による検査待ちの短縮
- ・ 無菌室の設置、産婦人科の個室設置
- ・ 敷地内全面禁煙の実施
- ・ ポケットベルによる呼び出しや患者図書コーナーの設置などによる、患者の待ち時間負担感解消の取り組みの実施

「市の医療施策推進における役割の発揮」

- ・健診センターを設置し、人間ドック、特定健診等各種健診事業の強化拡大
- ・DMAT 養成研修を受講し DMAT チームの編成
- ・21年度の新型インフルエンザ大流行時の、那覇市医師会や沖縄県看護協会等との協力体制による患者対応

- 「業務運営の改善及び効率化」の面では、病院経営や診療報酬等の専門的事務職員を採用し、民間のノウハウを生かし、施設基準及び、各種加算を積極的に取得して、診療単価の向上による大幅な収益改善を行なった。

(単位：百万円)

第1期中期目標期間の当期純利益				第1期中期目標 期間の総利益
H20	H21	H22	H23	
176	449	693	683	2,001

(特筆すべき取り組み)

- ・病院経営や診療報酬等の専門的事務職員の採用
- ・エコーセンター設置による、エコー業務の効率化
- ・DPC/PDPS の導入、7：1入院基本料取得、地域医療支援病院入院診療加算取得等、施設基準各種加算の積極的取得による診療単価の向上
- ・後発医薬品（ジェネリック）の採用促進による経費節減
- ・入院算定業務を委託から自前職員への切り替えによる診療報酬請求事務の強化
- ・ベッドコントロール室の新設による、効率的な病床運営
- ・入院準備センターの新設による、入院前検査等の円滑化

- 課題・改善の必要な事項について

次期中期計画期間に向けての課題及び改善事項は次のとおりである。

- ・高度医療を担う地域の中核的急性期病院として脳卒中センターの開設が必要
- ・医師、看護師、コメディカル、事務局等各部門においては、事前の研修計画に基づいた計画的な研修の実施
- ・医師についての人事評価制度の導入の進捗遅れに対する、調査検討結果の報告
- ・診療報酬による収益増等を踏まえた経営戦略に基づいた（看護師、医療技術職及び事務職等の職員）採用計画の実施
- ・退院サマリー作成の100%実施

- その他

地方独立行政法人那覇市立病院は、全国で5番目の地方独立行政法人の病院として、平成20年に設立された。全国で初めて、公務員から非公務員へ移行した地方独立行政法人の先進病院として、全国各地の議会・病院関係者の視察が相次ぎ（平成20年度～平成23年度視察件数89件）全国の自治体病院へ影響を与えたと思われる。その結果、現在、全国の地方独立行政法人の病院は35カ所に増加している。

このように地方独立法人の先進病院として、モデル的な役割を果たし経営的にも大幅な改善を行なったことは、地方独立行政法人への移行は大きな成功であったと評価できる。

第1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上		事業年度評価結果				中期目標 期間の評価																													
		H20	H21	H22	H23																														
中期目標	中期計画	A	A	A	A	A																													
<p>第2 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 診療機能の充実 (1) 救急医療体制の充実・強化 ① 小児救急をはじめとする救急医療体制の維持・充実 ・ 365日24時間救急医療体制の維持・充実</p> <p>② 消防との連携強化 ・ 救急受け入れのための消防との連携強化</p>	<p>第2 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 診療機能の充実 (1) 救急医療体制の充実・強化 ① 小児救急をはじめとする救急医療体制の維持・充実 ・ 他の医療機関と連携した、夜間・休日の医師等の確保 ・ 365日24時間救急医療体制の維持・充実</p> <p>② 消防との連携強化等 ・ 救急救命士に対する教育実習等の実施 ・ 空床状況の把握等、病床管理の徹底</p>	<p>[実績]</p> <p>●他の医療機関と連携した、医師の確保 ・ 小児科応援医師（開業医）延べ36人 387日 （琉球大学）延べ63人 1,012日</p> <p>●365日24時間救急医療 ・ 365日24時間救急医療体制の実施。小児科医も常時配置 【H20～】</p> <p>●消防との連携強化等 ・ 消防の救急救命士に対する教育実習を延べ77人に実施 ・ 空床状況を把握し、毎日20床の救急入院ベッドを確保【H20～】</p> <p>急病センター患者数（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>48,886</td> <td>53,871</td> <td>48,180</td> <td>48,318</td> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>4,681</td> <td>4,093</td> <td>4,832</td> <td>4,187</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>44,205</td> <td>49,778</td> <td>43,348</td> <td>44,131</td> </tr> <tr> <td>うち小児科患者数</td> <td>18,665</td> <td>22,836</td> <td>19,095</td> <td>19,966</td> </tr> <tr> <td>救急車搬送者数</td> <td>4,155</td> <td>4,307</td> <td>4,564</td> <td>4,599</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	患者数	48,886	53,871	48,180	48,318	入院患者数	4,681	4,093	4,832	4,187	外来患者数	44,205	49,778	43,348	44,131	うち小児科患者数	18,665	22,836	19,095	19,966	救急車搬送者数	4,155	4,307	4,564	4,599
区 分	20年度	21年度	22年度	23年度																															
患者数	48,886	53,871	48,180	48,318																															
入院患者数	4,681	4,093	4,832	4,187																															
外来患者数	44,205	49,778	43,348	44,131																															
うち小児科患者数	18,665	22,836	19,095	19,966																															
救急車搬送者数	4,155	4,307	4,564	4,599																															

- (2) 高度医療の充実
- ① 高度医療の充実
- がん治療やその他高度医療の充実
- ② 高度医療機器の計画的な更新・整備
- 計画的な医療機器の更新・整備

- (3) がん医療水準の向上
- 相談体制の充実及びがん診療に従事する医師等に対する研修の実施
 - 地域住民に対する、がんに関する情報の普及・啓発

- (2) 高度医療の充実
- ① 高度医療の充実
- がん治療等充実のための、医師等の増員とスキルアップ
 - 急性期病院の機能強化のため、NICU等を充実

- ② 高度医療機器の計画的な更新・整備

- (3) がん医療水準の向上
- ① 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化
- 地域のがん医療水準向上のため、がん診療に従事する医師等に対する研修会の開催及びがん患者の相談体制強化
- ② 緩和ケアの充実
- ③ がんに関する情報の市民への普及啓発

- 医師等の増員とスキルアップ
 - 正職員の医師18名、看護師165名、医療技術職員45名を増員
 - 看護師を増員し、7対1看護基準を導入【H20～】
 - スキルアップのため、研修会へ1,583人の職員を派遣
- NICU等の充実
 - NICU9床から11床に増設し、ハイリスク新生児受け入れ体制を充実【H20】
- 高度医療機器の更新・整備
 - 高度医療機器の整備状況

年 度	整 備 機 器
20	乳がん検診用マンモコイル 生体情報管理システム
21	デジタルガンマカメラ 全身用X線マルチCT装置
22	MR I
23	血管造影装置

- 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化
 - 医療従事者向け研修会を29回開催し、117人が緩和ケア受講認定
 - がん患者相談人数568人
- 緩和ケアの充実
 - 緩和ケア相談人数291人
- 地域住民に対する、がんに関する情報の普及・啓発
 - 地域住民に対し、専門講師を招いたがんフォーラムを6回、乳がん塾を24回開催

<p>(4) 地域医療機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関との連携の強化・機能分担の推進 開放病床の利用促進等 	<p>(4) 地域医療機関との連携強化</p> <p>① 地域の医療機関との役割分担・連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関との役割分担の明確化と連携の強化 <p>② 地域医療への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 開放病床の利用促進等 	<p>●地域医療機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域医療支援病院」の名称取得【H22】 <p>紹介率（単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>39.9</td> <td>69.2</td> <td>72.7</td> <td>62.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>28.6</td> <td>54.4</td> <td>54.2</td> <td>44.5</td> </tr> <tr> <td>開放病床利用率</td> <td>42.0</td> <td>84.4</td> <td>76.4</td> <td>83.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>●地域医療への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携パスの作成 <p>地域連携パス実績（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中連携パス</td> <td>33</td> <td>71</td> <td>119</td> <td>139</td> </tr> <tr> <td>大腿骨連携パス</td> <td></td> <td></td> <td>46</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>がん連携パス</td> <td></td> <td></td> <td>12</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	紹介率	39.9	69.2	72.7	62.0	逆紹介率	28.6	54.4	54.2	44.5	開放病床利用率	42.0	84.4	76.4	83.6	区分	20年度	21年度	22年度	23年度	脳卒中連携パス	33	71	119	139	大腿骨連携パス			46	98	がん連携パス			12	48
区分	20年度	21年度	22年度	23年度																																						
紹介率	39.9	69.2	72.7	62.0																																						
逆紹介率	28.6	54.4	54.2	44.5																																						
開放病床利用率	42.0	84.4	76.4	83.6																																						
区分	20年度	21年度	22年度	23年度																																						
脳卒中連携パス	33	71	119	139																																						
大腿骨連携パス			46	98																																						
がん連携パス			12	48																																						
<p>(5) 医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上</p> <p>① 医療スタッフの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師の人材確保 看護師及び医療技術職員の人材確保 育児支援等による人材確保 	<p>(5) 医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上</p> <p>① 医療スタッフの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 琉球大学との連携の強化、公募による採用等の活用、臨床研修プログラムの充実等による優秀な医師の確保 関係教育機関等との連携強化による看護師及び医療技術職員の確保 院内保育所や子育て支援制度等の充実による人材確保 	<p>●優秀な医師の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 琉球大学から臨床実習68人、研修医50人を受入。ホームページ等での公募により16名の医師を確保。臨床研修指定病院として初期研修医48名、後期研修医29名を採用。研修医を対象とした超音波検査宿泊研修を実施【H20～】。分娩手当、新生児医療担当手当、救急勤務医手当の創設【H22～】 <p>●優れた看護師及び医療技術職員の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護職1,539人、医療技術職77人の研修生を受入及び県内の看護師養成学校での就職説明会参加 <p>●育児支援等による人材確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 育児、介護休業制度を非常勤職員に拡大【H20】。院内保育所の土曜日の保育時間延長【H22～】 																																								

- ② 専門性及び医療技術の向上
- ・ 医療職の研修等の充実

- (6) 医療サービスの効果的な提供
- ・ クリニカルパスの導入促進

- (7) より安心して信頼できる質の高い医療の提供

- ① 医療安全対策の徹底
- ・ 院内感染防止対策の実施等医療安全対策の徹底

- ② 専門性及び医療技術の向上
- ・ 認定看護師及び専門資格の資格取得の促進
 - ・ 医療技術職の専門性に応じた研修等の実施及び資格取得の促進

- (6) 医療サービスの効果的な提供
- ・ より短い期間で効果的な医療を提供するため、クリニカルパスの導入を促進

- (7) より安心して信頼できる質の高い医療の提供

- ① 医療安全対策の徹底
- ・ インシデント・アクシデントに関する情報の収集・分析による医療安全対策の徹底
 - ・ 感染源や感染経路などに応じた適切な院内感染予防策の実施など院内感染対策の充実
 - ・ 医薬品の安全管理及び安全使用のための情報提供
 - ・ 医療機器保守点検の徹底による安全確保

医療スタッフ数 (単位:人)

区 分	平成 20 年 3 月 31 日	平成 24 年 3 月 31 日
医師	57	75
看護師	320	485
その他医療技術職	53	98

●認定看護師等の資格取得促進

- ・ 認定看護師による院内外での研修や、症例検討会での指導・運営
- ・ 資格取得者の状況 (単位:人)

区 分	19年度	23年度
看護師資格取得	45	70
技師等資格取得	29	72

●クリニカルパスの導入促進

- ・ パス委員会を立ち上げる【H20】などクリニカルパスの導入を促進し、種類数が大幅に増加

区 分	19年度	23年度
クリニカルパス種類数	56	150

●医療安全対策の徹底

- ・ リスクマネジメントシステムの活用によるインシデント・アクシデント収集
- ・ インシデント・アクシデント等の情報収集等を行う医療安全対策委員会を、毎月1回開催、職員対象の医療安全研修会・講習会を50回実施
- ・ 医療安全対策を徹底するため医療安全管理室を分離独立【H22】
- ・ 院内感染防止対策委員会を定期的で開催、ICT活動等による院内感染予防策の実施
- ・ 医薬品安全管理責任者を配置、医薬品業務手順書の整備、職員研修の実施
- ・ 医療機器安全管理責任者を配置、医療機器安全使用のための情報の共有及び改善方策の実施

- ② 患者中心の医療の実践
 - ・ インフォームド・コンセントの徹底
 - ・ セカンドオピニオン体制の強化
- ③ 科学的な根拠に基づく医療の推進
 - ・ 科学的な根拠に基づく医療(EBM)の推進
- ④ 法令・行動規範の遵守(コンプライアンス)
 - ・ 関係法令の遵守、行動規範と倫理の確立による適正な病院運営
 - ・ カルテ(診療録)などの個人情報の保護並びに患者及びその家族への適切な情報開示
- ⑤ 病院機能評価の更新
 - ・ 病院機能評価の受審
- 2 患者サービスの向上
 - (1) 診療待ち時間の改善等
 - ・ 待ち時間及び検査・手術待ちの改善等

- ② 患者中心の医療の実践
 - ・ インフォームド・コンセントの一層の徹底
 - ・ セカンドオピニオン相談体制の強化
- ③ 科学的な根拠に基づく医療の推進
 - ・ より質の高い医療を提供するための、科学的な根拠に基づく医療(EBM)の推進
- ④ 法令・行動規範の遵守(コンプライアンス)
 - ・ 関係法令の遵守、内部規程の策定、倫理委員会によるチェック等を通じた、役職員の行動規範と倫理の確立
 - ・ カルテ等の適切な情報開示
- ⑤ 病院機能評価の更新
 - ・ 病院機能評価の受審
- 2 患者サービスの向上
 - (1) 診療待ち時間の改善等
 - ① 診療待ち時間の短縮
 - ② 手術の待機日数短縮

- 患者中心の医療の実践
 - ・ 患者、家族が理解しやすい図やグラフなどを用いた、またクリニカルパスにのっとった説明を行う等インフォームド・コンセントの徹底
 - ・ がん拠点病院として、ホームページでのセカンドオピニオン外来の紹介、相談実施40人、相談紹介150人
- 科学的な根拠に基づく医療の推進
 - ・ 診療に際しては、診療ガイドラインなどを用いた医療を実践、最新の知識を習得するための学術集会等への参加、発表
- 内部規定の策定、カルテ等の適切な情報開示
 - ・ 策定した内部規定を各部署において順次見直し
 - ・ 倫理委員会をとおした臨床現場における医療倫理の確認
 - ・ オリエンテーションを通じた新人職員へのコンプライアンスの徹底
 - ・ カルテ開示請求に対し、那覇市個人情報保護条例及び那覇市情報公開条例に基づき適切に対応
- 病院機能評価の受審
 - ・ 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の受審・認定【H20】
- 診療待ち時間の短縮
 - ・ 待ち時間の実態調査を毎年度実施。ポケットベルによる呼び出しや患者図書コーナーの設置など、患者の待ち時間負担感解消の取り組みを実施
 - ・ 平成23年調査の結果、約60%が待ち時間45分以内となり、待ち時間が短縮
- 手術室の効果的な運用
 - ・ 手術件数(単位:件)

年度	19年度	23年度
手術総数	3,127	3,687
うち麻酔科担当手術	2,058	2,377

<p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上 ・ 施設の改修・補修及び患者のプライバシー確保に配慮した院内環境の整備。施設内禁煙の実施</p> <p>(3) 医療情報ライブラリーの設置</p>	<p>③ 検査待ちの短縮</p> <p>(2) 患者・来院者のアメニティの向上 ① 施設の改修・補修の実施</p> <p>② プライバシー確保に配慮した環境整備の推進</p> <p>③ 施設内禁煙の実施</p> <p>(3) 医療情報ライブラリーの設置</p>	<p>●検査機器の稼働率の向上等による検査待ちの短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> MR I の予約枠拡大、早朝、時間外の検査【H20～】、エコー機5台更新により、予約枠を無くし当日検査【H21～】 検査機器の稼働状況（単位：件） <table border="1" data-bbox="1308 233 2074 461"> <thead> <tr> <th>検査機器・装置名</th> <th>19年度</th> <th>23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT検査装置</td> <td>15,723</td> <td>15,749</td> </tr> <tr> <td>MR I 検査装置</td> <td>6,353</td> <td>7,606</td> </tr> <tr> <td>血管造影装置</td> <td>578</td> <td>907</td> </tr> <tr> <td>R I 核医学装置</td> <td>1,670</td> <td>1,091</td> </tr> <tr> <td>放射線治療装置リニアック</td> <td>5,833</td> <td>6,934</td> </tr> </tbody> </table> <p>●施設の改修・補修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者に快適な環境を提供するため、病室、待合室、トイレ及び浴室等の改修等の計画的な実施 <p>主な取り組み 病棟・外来トイレの補修【H20～H23】、浴室の補修【H20、H23】、産婦人科個室設置【H21】、健診センターの設置、産婦人科病棟及び人工透析室の壁改修等【H22】</p> <p>●プライバシー確保に配慮した環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者のプライバシー確保に配慮した部屋の設置等、環境整備の推進 <p>主な取り組み 病棟に病状説明室、手術室に説明エリアの設置【H20】、問診・検査説明のためのカンファレンス室設置【H23】</p> <p>●施設内禁煙の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者、家族等の健康に配慮し、施設内禁煙を実施 <p>主な取り組み 敷地内全面禁煙及び禁煙パトロールの実施【H20～】、敷地内完全禁煙施設の認定申請を行い、沖縄県より認定【H23】</p> <p>●医療情報ライブラリーの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者図書室を医療情報ライブラリーとして運用【H20】 	検査機器・装置名	19年度	23年度	CT検査装置	15,723	15,749	MR I 検査装置	6,353	7,606	血管造影装置	578	907	R I 核医学装置	1,670	1,091	放射線治療装置リニアック	5,833	6,934
検査機器・装置名	19年度	23年度																		
CT検査装置	15,723	15,749																		
MR I 検査装置	6,353	7,606																		
血管造影装置	578	907																		
R I 核医学装置	1,670	1,091																		
放射線治療装置リニアック	5,833	6,934																		

<p>(4) 患者の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クレジットカード等による医療費の支払い ・ 売店の営業時間延長など <p>(5) ボランティアとの協働によるサービス向上</p> <p>(6) 職員の接遇向上</p> <p>3 市の医療施策推進における役割の発揮</p> <p>(1) 市の保健行政との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種健康診断の実施 ・ 健診センターの設置検討 <p>(2) 災害時における医療協力</p>	<p>(4) 患者の利便性向上</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クレジットカード等による医療費支払い ② 売店の営業時間延長等 <p>(5) ボランティアとの協働によるサービス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの受け入れ <p>(6) 職員の接遇向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院全体の接遇マナー向上 <p>3 市の医療施策推進における役割の発揮</p> <p>(1) 市の保健行政との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市の機関と連携し、各種健診を実施 ・ 健診センターの設置検討 <p>(2) 災害時における医療協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●クレジットカード等による医療費支払い ・ 業務開始した健診センターのクレジットカードによる支払い【H22】 ●コンビニの開設 ・ 沖縄ファミリーマートが開設され、営業時間の延長、品揃えの充実等、患者の利便性を向上【H20】 ●多様なボランティアの受け入れ ・ 定期活動を実施する、音楽ボランティアや園芸ボランティアの受け入れ ・ その他、絵本読み聞かせ、衛生材料作り、図書整理のボランティアを受け入れ ●研修による接遇マナー向上 ・ 接遇研修開催 延べ9回、延べ746人参加。新入職員オリエンテーション244人参加 ●市の保健行政との連携 ・ 市の機関と連携・協力して、人間ドック、特定健診、がん検診等、各種健診を実施 ・ 健診センターを設置し、各種健康診断事業を拡大。那覇市などの施策に協力し、日曜健診を実施【H22～】 ●災害時の医療協力 ・ 平成23年3月11日の東日本大震災の発生にともない、被災者の患者1人を受入。さらに現地医療救援活動に医師、医療ソーシャルワーカー計7人を被災3県に派遣。 ・ DMA T養成研修を受講し、DMA Tチームを編成【H23】 ・ 那覇市総合防災訓練に延べ77人が参加 ●新型インフルエンザ対策 ・ 21年度の新型インフルエンザ大流行時には、那覇市医師会や沖縄県看護協会等と協力し、患者に対応した
---	---	--

<p>(3) 市民への保健医療情報の提供・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民対象の公開講座の開催、ホームページ等での情報提供など、保健医療情報の発信及び普及啓発の推進 	<p>(3) 市民への保健医療情報の提供・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民対象の公開講座の開催、ホームページ等での情報提供など、保健医療情報の発信及び普及啓発の推進 	<p>●市民への保健医療情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民対象講座乳がん塾を開催。市民及び企業向け講演会に講師を派遣。広報誌「梯(きざはし)」、ホームページ等による医療情報の提供。出前講座【H23】の実施 <p>【優れた取り組み、特色ある取り組み】</p> <p>市立病院の運営が的確に行えるような管理体制を構築し、中期目標、中期計画に掲げる組織目標の達成に向けた運営を行ったことなどにより、以下のような取り組みができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 常時小児科医を配置した365日24時間救急医療を実施するなど救急医療体制の充実・強化（P. 1参照） 地域がん診療連携拠点病院として、医師等に対する研修会の開催、がんに関する情報の市民への普及など、がん医療水準向上のための取り組み（P. 2参照） 「地域医療支援病院」の名称取得し、紹介率・逆紹介率の維持（P. 3参照）による地域医療機関との連携強化 優れた医療スタッフ確保、育成のための研修体制の充実（P. 3参照） <p>【今後の課題、改善を要する取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急医療体制の更なる充実・強化 資金計画を策定したうえでの、高度医療機器更新・整備の推進 災害時における医療協力のための体制整備
---	---	--

第2 業務運営の改善及び効率化		事業年度評価結果				中期目標 期間の評価
		H20	H21	H22	H23	
中期目標	中期計画	A	A	A	A	A
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>1 法人としての運営管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的・効果的な運営管理体制の構築 組織目標が達成できる体制の整備 <p>2 効率的・効果的な業務運営</p> <p>(1) 業務執行体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師等の弾力的な配置や、多様な専門職の活用 <p>(2) 職員の職務能力の向上</p> <p>① 資格取得も含めた教育研修システムの整備</p> <p>② 事務スタッフの育成</p> <p>(3) 新人事制度の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 公正で適正な新人事制度の導入 	<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>1 法人としての運営管理体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織体制の見直し 診療科別損益計算の活用方法の検討 部門別実施計画の策定 <p>2 効率的・効果的な業務運営</p> <p>(1) 業務執行体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師等の弾力的配置や多様な専門職の活用 人事管理システムの構築 <p>(2) 職員の職務能力の向上</p> <p>① 資格取得を含む教育研修システムの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修計画の策定 医療スタッフの先進医療機関への長期派遣研修の実施 <p>② 病院経営や診療情報の管理・分析の専門能力を有する事務職員の採用、育成</p> <p>(3) 新人事制度の構築</p> <p>① 人事評価制度の導入</p>	<p>[実績]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●法人としての運営管理体制の確立 <ul style="list-style-type: none"> 医療面及び経営面で法人運営を効果的に行う体制の整備 診療科別損益計算書の作成及び経営への活用検討 組織目標達成のため、年度ごとに部門別実施計画の策定及びヒヤリングの実施 ●業務執行体制の見直し <ul style="list-style-type: none"> エコーセンターを設置し、エコー業務を中央化【H21】 入院算定業務を委託から派遣への切り替え、各種加算等の取得推進。診療情報管理室を独立し、がん統計及び診療統計を充実。ベッドコントロール室を新設し、効率的な病床運営。入院準備センターを新設し、入院前検査等の円滑化【H22】 ●人事管理システムの構築 <ul style="list-style-type: none"> 庶務事務システムを運用し、IT化を推進【H21】 ●教育研修システムの整備 <ul style="list-style-type: none"> 那覇市立病院職員研修基本方針に基づく全体職員研修計画、部門別研修計画を毎年度策定 資格取得研修へ薬剤師及び看護師各1人を派遣【H23】、後期研修医2人、看護師2人【H20～H22】、県外先進医療施設へ看護師1人を2年間【H22～H23】、看護職員交流研修事業【H22～】 ●専門的事務職員の採用、育成 <ul style="list-style-type: none"> 病院経営の知識・経験を有する事務職員の採用 新規採用一般事務職員の資格取得支援【H20、H21】 ●人事評価制度の導入 <ul style="list-style-type: none"> 新人事評価制度を本格実施【H21】。毎年度、精度向上と定着のための研修を実施 				

- (4) 予算執行の弾力化等
- ・ 弾力的な予算執行
 - ・ 効率的・効果的な事業運営
 - ・ 複数年契約や複合契約など多様な契約手法の活用による費用の節減等

(5) 収入の確保と費用の節減

① 収入の確保

- ・ 収益確保と適正な病床稼働率の維持及び高度医療機器の稼働率の向上
- ・ 診療報酬の請求漏れや減点の防止、未収金の未然防止対策と早期回収

② 費用節減

- ・ 後発医薬品の採用促進及び薬品費、診療材料費等の節減

② 新人事制度を適切に実施するための見直し

(4) 予算執行の弾力化等

- ・ 弾力的な予算執行
- ・ 効率的・効果的な事業運営
- ・ 複数年契約や複合契約など多様な契約手法の活用による費用の節減等

(5) 収入の確保と費用の節減

① 収入の確保

- ・ 収益確保と適正な病床稼働率の維持及び高度医療機器の稼働率の向上
- ・ 保険診療委員会の活用による診療報酬の請求漏れや減点の防止、未収金の未然防止対策と早期回収

② 費用節減

- ・ 後発医薬品の採用促進
- ・ 薬品、診療材料等の適正な在庫管理

●医師の人事評価制度

- ・ 医師の人事評価制度導入の調査・検討

●予算執行の弾力化と多様な契約手法の活用

- ・ 予算流用や、年度間にまたがる工期の延長への予算対応の簡便化による弾力的な対応
- ・ 複数年契約等の活用

●増収対策

- ・ DPC/PDPSの導入、7：1入院基本料取得【H20】、地域医療支援病院入院診療加算取得【H22】
- ・ 上位の施設基準の積極的取得による診療単価の向上
- ・ DPC委員会での分析とベンチマークによるDPC/PDPSの効率的運用

区 分	19年度	23年度
病床稼働率	92.8%	89.8%
平均在院日数	14.6日	11.9日
入院診療単価	36,444円	51,432円
外来診療単価	10,446円	13,239円

●収入確保

- ・ 医事算定の経験を有する職員配置による診療報酬請求漏れ対策、保険診療委員会での分析・検討による減点防止対策、診療報酬改定に関する説明会の開催による収入確保に向けた取り組みの強化
- ・ 入院オリエンテーション室の活用による未収金の未然防止対策、未収金台帳の管理等による早期回収

●後発医薬品の採用促進

- ・ 毎年度目標値を掲げるなど、後発医薬品の採用を促進

区 分	19年度	23年度
後発医薬品採用率（品目ベース）	16.3%	22.6%

- | | | |
|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none">●材料費の購入価格低減と適正な在庫管理<ul style="list-style-type: none">・ 薬品や診療材料について、価格交渉による大幅な削減を図り、全国自治体病院協議会調査結果による平均値を上回る薬価値引き率を確保・ 適正な在庫管理による費用節減【優れた取り組み、特色ある取り組み】<ul style="list-style-type: none">・ 法人の運営を的確に行うための体制の確立や、管理会議等における経営分析など機動的な運営、地方独立行政法人化のメリットを活かした弾力的な予算執行などのほか、以下のような取り組みなどにより、中期計画を上回る利益を確保することが出来た。・ 業務執行体制の見直しによる業務効率化・ 診療・看護体制の充実により、加算及び上位施設基準の取得による診療単価の向上・ 後発医薬品の採用促進や材料費の購入価格低減など、費用節減の実現【今後の課題、改善を要する取り組み】<ul style="list-style-type: none">・ 引き続き収益を向上させるための、積極的な経営の継続・ 確保した利益を施設整備や医療機器など診療機能の充実に活かし、将来にわたり高度医療を提供できるような安定経営の維持 |
|--|--|--|